

「神の選びと頑なな者②」

～家系「癖」～

列王記第二1:1～8

■ 頑なではないですか？

私たちは多くの場合、同じ失敗を繰り返してしまいます。嫌なことがあるとそのことから離れてしまい、勝手に向きを変えて的を外していきます。聖書はこの的を外す生き方が「罪」だと教えています。（「罪」と訳されたギリシャ語はハマルティア、的を外れという意味）ですから、的を射抜く人生とは、目の前にある壁に正面から向き合い、その壁を打ち砕く人生です。そしてその壁を神様と一緒に乗り越えるときに、私たちは自信と大きな力を得ることができます。

■ 家系の「癖」

しかし、それを邪魔してくるのが私たちの「癖」です。ときに、家系に引き継がれてきたものを「家系の呪い」として捉える見方がありますが、これは呪いではなく、家系の癖であり、その家が持ってしまった価値観です。よって、親と子の判断は良く似ています。私たち人間は1日に数万回も決断をしていると言われるが、それらを家系の癖から決断していたらどうでしょうか。偏りが出て、ズレていってしまいます。ですから、イエス様は家庭の価値観を断ち切って、新しい価値観を負うように言われました。それは、イエス様に繋がっていること、イエス・キリストの生き方に接ぎ木されるということです。

■ 柔和と穏健な生き方

家庭の「癖」、価値観を断ち切ろうとすると、私たちは柔和・穏健であることがなかなかできません。職場や学校では柔和な雰囲気を出していても、自分にとって近い家族や価値観が合わない人には自分の弱さが出やすく、素直になることが難しいからです。しかし神様は、そのような人があなたの隣人であると言われる。あいつが…と言いたくなる時、指をさすのをやめて神様と話すならば、知恵が与えられます。そして、そのような人はその知恵にふさわしい柔和な行いをすることができるのです。ヤコブ 3:13『あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。』

■ 目が与える影響 90%を神様に向ける

私たちの身体には約 10,000 の感覚受容体がありますが、多くの感覚がある中で、最も敏感に感覚を感じているのは「目」です。実に全体の 90%にあたる感覚を私たちは「目」から受け取っています。ですから、ソファに寝転がってスマートフォンを覗いているだけだとしても、身体は休んでいるようで実は 90%が動いているのです。なので私たちは、スマートフォンを 2 時間覗ただけで忙しく感じ、疲れた…と言ってしまうのです。それだけの影響を受けるので、私たちは祈るときに目をつぶります。そして、手も組みます。手も多くの感覚を感じるからです。これは祈り方のルールではありません。私たちが静まって目を閉じるなら、90%が神様に向くということです。そうして神様に集中するとき、私たちの心のざわつきは穏やかになっていくのです。

■ 継承される家系の「癖」

アハブ王の息子であったアハズヤ王は、欄干から落ちて病に臥せたことで偶像の神に助言を求めます。その途中でエリヤに会い預言を聞きますが、アハズヤ王はその言葉を素直に聴くことができません。このプライドは、アハブ王から継承された「癖」でした。エリヤが何度、本当の神様のことを伝えても、彼は耳元で聴こえる間違った声、自分に同調してくれる聞きやすい声を選び続けてきました。息子も同じ判断をしたのです。しかし、これは私たちの姿です。誘惑の声に負け、うまくいかないときには感情的になって怒り、この世の価値観で進んでいる人たちを見て『この世の価値観で動いている』とさばっている。まさに、目に見えるものに影響されて、心が頑なになっている状態です。私たちはこの価値観を継承しますか？

■ 価値観を変える

価値観を変えるとは、今まで自分が間違っていたことを認めることです。しかし、私たちにはプライドがあり、それをなかなか認めることができません。人が生き方を変えるならば、その人のよい部分は残り、次の世代へと継承されていきます。しかし、神様の前にごめんなさいと言つて的を外した生き方を戻すこと（メタノイア）をしないのなら、悪い価値観はそのまま次の世代へと継承されていきます。私たちはどちらを選ぶたいですか？

良い価値観を継承するために、私たちの耳元でささやき、誘惑して

くるものに負けない意志が必要です。そして、私たちの人生を壊そうと狙いをつけ、近づいてくるものを「あーあ」と言つて諦めさせなければなりません。それが、罪を認める素直さです。

アハブとイゼベルから継承された王家はアハズヤの代で終わります。なぜなら、アハズヤには子どもがいなかったからです。神様は悪い価値観を引き継ぐ罪の家系を断ち切られました。神様に従わないとは後の世代にまで影響を与えます。しかし、私たちが神様を愛し、従うなら、その家系は千代まで祝福されます。（出エジプト 20:6）

■ 神様が選ばれる理由とは

神様は「素直な心」を選ばれます。素直とは、何かが起きた時に「神様、なぜ私は今このような状況なのでしょう？」と聴けることです。何でもこんなことに？、なぜ私が？と思っている時は、神様の意図がわからず文句が先に出来ます。しかし、なぜ私がそこに植えられたのか、なぜあの人が私の近くにいて、なぜ私はこの道を通っているのか…と考える時に、人には解決できないことがわかり、私たちは神様に聴こうとします。考えるので、自分にできないことも良くわかります。どんどん調べるので、周りの人と自分を比較するのではなく、その人の良さがわかります。すると、自分にできないことは「助けて」と言うことができるようになります。これが、『ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。』（マタイ 18:20）と言われた神様の知恵です。この知恵によって私たちは次の世代を教育し、頑な価値観を断ち切ることができるのです。

■ 私たちは戦うことができる

コカ・コーラを作ったエイサー・キャンドラは、アルコール依存症になり壮絶な人生を送っていました。彼の妻は、そんな彼を責めることはせず、毎日祈っていました。ある時、エイサーが外を歩いていると突然、天から声が聴こえました。それは「お前のアルコール依存症をなんとかしろ」というものでした。家に帰り、そのことを妻に話すと、天から声が聴こえた時間は、妻が必死に祈っていた時間と同じだったのです。彼らは手を取り合い祈りました。「人間にはできません。依存症は自分では断ち切ることができません。ですから神様が力を与えて、ここで断ち切れるようにしてください」。その後、彼はアルコール依存症を断ち切り、町の市長になるまでに回復したのです。私たちは自分の弱さがわかったなら、的を絞って祈ることができます。そして、周りにいる友に「助けて」ということができるなら、変わることができます。

家系の「癖」は簡単になくなるものではありません。しかし、私たちが祈りによって戦うならば、変わることができます。エイサーのように人や地域に影響を与えるものになります。すべての出来事は一人の人の決断から始まります。そして、その人の決断は私たちの模範となりました。私たちはその模範を引き継いで、今日、生き方を変えることができます。

最後に

愛する神様、あなたの御名を賛美します。

私たちが目を閉じ、手を組んで祈るのは神様の声を聴くためです。静まって、小さな部屋で祈ります。私たちには親から引き継いだ価値観があります。そして私も子どもの世代に間違った価値観を継承しています。どうか、その間違った決断を赦してください。そして、私や次の世代が間違った価値観を断ち切り、イエス・キリストの価値観を継承することができますように。過去のズレた生き方を十字架によって取り去ってください、今日から新しく立ち向かえるようにしてください。

なぜ？と思うときほど、素直に神様の前に出ることができますように。

（要約者：岡本 享子）

（2025年2月9日）